# 令和4年度　大田区立大森第二中学校　自己評価　報告書

令和5年3月6日

## ○　本校の概要

本年度は、1年5学級、2年4学級、3年4学級、計13学級の生徒数431名（4月現在）、の規模である。教職員は40名（教員27名、事務・栄養士2名、講師6名、スクールカウンセラー3名、支援員2名）で構成している。
本校では、小・中のスムーズな連携をめざして、小学校3校との学校間交流を協力して進め、授業研究・わくわく体験・体験授業・生徒会による学校紹介・小中合同ボランティア活動等の行事に取り組み、生徒一人一人の個性と適性を把握し、伸張を図っている。
また、学校支援地域本部により二中応援団としてさらに活動を広げている。部活動を始めとし、生徒の様々な活動の場で保護者と地域が連携し応援している。

## ○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 目標に対する成果指標 | | 成果評価 | これまでの取組<br>今後の改善策 | コメント |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上が回答した。<br>2:60%以上が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が70%以上 | 4: | 3<br>62% | <外国語教育><br><br><科学的な思考><br>根拠をもって自分の主張を表現できるように、単元ごとにレポート課題を出している。<br><ICT機器><br>教員、生徒ともにICTを適宜活用している。<br><人権教育><br>学び合い活動の中で、他者を受け入れる寛容性の育成を図っている。<br><体力向上><br>保健体育科の先生におまかせしてしまっている部分が多いと思います。この取り組みについては、よくわかりません。運動会は実施できた。教科担任制になる中学校では1学級十戦のような取り組みは難しいと思われる。 | 運動会は良かったと思われるが、指導的に厳しい物があったのか？<br>今後の体育教員不足も解決していかなくてはいけないのかと感じた。<br>ICT機器の活用も大事ですが、顔と顔をつきあわせてのコミュニケーションも、もっと重要な物と考えてご指導お願いします。<br>中学生にとって「授業で自分の意見を発表することに意欲的に取り組む」という目標をたっせいするのは、するのは、小学生よりさらに難しいことだろうと尾の割れます。「そう思わない」が15%しかいないのはむしろすごいのでは。<br>体力向上については、冬季などあまり体を動かさない時期に昼休みなどを使って簡単に取り組める物があると良いかなと思います。（例えばクラス対抗で大縄の回数を競うなど、小学校などでは実践しています。）<br>指標が低かったのに今後の取組が弱いように感じます。<br>「体力テスト・・・・」の項目は4番目の「体力向上・・・・」に入れるべきでは。<br>生徒一人一人に個人差があり永遠の課題です。<br>日本の将来を担っていく人材を育てる基礎を作ってほしい。英語教育と国際的に通用する倫理観と論理観を育ててほしい。 |
| | | 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 | 4:全教員が行った。<br>3:80%以上の教員が行った。<br>2:60%以上の教員が行った。<br>1:60%未満であった。 | 「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が60%以上 | 3: | | | |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。<br>3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。<br>1:60%未満であった。 | | | | | |
| | | 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 | 4:対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3:80%以上で行った。<br>2:60%以上で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が50%以上 | 2: | | | |
| | | 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「授業で自分の意見を発表するなど意欲的に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒が50%未満 | 1: | | | |
| プラン2　学力の向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4:対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3:80%以上で行った。<br>2:60%以上で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。 | 4: | 4<br>83% | <学習カルテ><br>7月の面談時に活用していています。指導はしたが学習カルテは個人成績表とかぶるので手間がに寿になるように思われる。<br><ステップ学習><br><br><補習><br><br><授業改善プラン><br><br><確かな学力><br>作品完成ごとに、作品の振り返りと周囲の人への発表（短いプレゼンテーション）を行っている。授業では毎時間感想やまとめを書かせた。 | 廊下に展示されている一人一人どのまとめには文章力・レイアウトなど力を感じる。今後も伸ばしていってほしい。<br>参観や検定などで生徒が積極的に学習しているように感じました。<br>先生方が、わかりやすい授業を工夫されていることがよくわかります。<br>生徒さんのプレゼン能力は非常に素晴らしいと思います。この先も役に立つ物なので続けてほしいです。<br>高い評価は良いことです。<br>実際の学力は上がっているのですか。<br>先生の教育に対する工夫が感じられます。<br>アンケートの結果を見ると生徒の80%が先生方はわかりやすい授業を工夫していると答えている。その成果を検証して活かしてほしい。 |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2～3回知らせた。<br>3:学期毎に知らせた。<br>2:年度間に1回は知らせた。<br>1:お知らせできなかった。 | 「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。 | 3: | | | |
| | | 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。<br>3:80%以上の教員が働きかけた。<br>2:60%以上の教員が働きかけた。<br>1:60%以下の教員が働きかけた。 | 「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。 | 2: | | | |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上が回答した。<br>2:60%以上が回答した。<br>1:60%未満であった。 | | | | | |
| | | 自分の考えをまとめ論述したり発表の機会を設けることで確かな学力の向上を目指す。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「学校の授業はわかりやすく、基礎・基本が身についている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。 | 1: | | | |
| プラン3　豊かな心の育成 | 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4:全教員が行った。<br>3:80%以上の教員が行った。<br>2:60%以上の教員が行った。<br>1:60%未満であった。 | 「校内において礼儀作法を身につけ、身だしなみを整えるように努力している」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。 | 4: | 4<br>87% | <生活指導><br>小学校の教員と情報共有する等して、連携して指導に当たっている。社会のルールや決まりを守らせる活動は機会を捉えてやっているが、特に小中一貫の視点で活動することはないように思われる。<br><道徳教育><br><br><学校生活調査><br><br><ケース会議><br>いじめ防止基本方針の内容を確認するとともに、生徒の日頃の様子に目を配った。今後も生徒の様子には注意し、いじめの未然防止、早期発見につなげていく。<br><確かな学力><br><br><学級集団><br>落ち着いた学校生活が行えるように学級集団作り4を心がける指導を行った。 | なかなかコロナ禍の中、行えてなかった。<br>小中一貫教育の活動ができなかったが、これからに期待する。<br>目標をよく読んでみて、今後取組が始められる性教育こちらの目標にそう物になるのかなと思いました。そうなると、小中一貫の視点が大切になってくることでしょう。<br>いろいろな生徒さんの親がいる中で対応が難しいことも多々あると思います。先生方の心持ち枯れないようにしていただきたいと思います。<br>基本的な礼儀を身につける時期です。<br>住みやすい生活は安定した社会によって保たれており相互に依存して成立している事を理解させてほしい。<br>相手の立場に立てて物事を考えられる人であってほしい。 |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3:学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2:年度間に1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 「校内において礼儀作法を身につけ、身だしなみを整えるように努力している」とアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。 | 3: | | | |
| | | 学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる生徒に対して組織的に対応する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 「校内において礼儀作法を身につけ、身だしなみを整えるように努力している」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。 | 2: | | | |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | | | | | |
| | | 問題行動・不登校問題等にかかわる生徒に関するケース会議等を実施する。 | 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。<br>3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。<br>2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。<br>1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。 | 「校内において礼儀作法を身につけ、身だしなみを整えるように努力している」とアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。 | 1: | | | |
| | | 個々の生徒の課題を踏まえ、学習環境を整備しよりよい学級集団を作る取り組みをしている。 | 4:対象となる全学級（全教員）で行った。<br>3:80%以上で行った。<br>2:60%以上で行った。<br>1:60%未満であった。 | | | | | |
| プラン4　体力の向上と健康の増進 | スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。 | 4: | 3<br>71% | <早寝早起き><br><br><食育><br><br><運動習慣><br><br><遅刻0><br>生活習慣が乱れている生徒については、規則正しい生活を送れるように、生活改善に関する指導を個別に行い、継続的に声掛けしている。 | 食育・時間の大切さなどあたりまえの教育も今後継続が必要。<br>家庭との連携が特に大切なところですが、生徒自身が自覚して生活できるようになるには、家庭状況等を理解している先生による声かけがより必要なのかなと感じます。<br>コロナ禍での黙食も食事を楽しむと言うことから遠ざけているように感じます。（仕方のないことですが）<br>3割近くが自分自身で規則正しい生活に努めていないということをどう変えていくか。<br>保護者よりも生徒がそう感じていないという点が気になります。<br>睡眠や食生活に気をつけて健康な生活習慣が身につくよう家庭と協力して定着されることを願います。 |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が70%以上。 | 3: | | | |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。 | 2: | | | |
| | | 規則正しい生活を目指して遅刻0を目指す。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | 「体力向上や健康増進の規則正しい運動や食生活に努めた」というアンケートで回答した生徒の割合が60%未満。 | 1: | | | |
| プラン5　魅力ある教育環境づくり | 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。 | 4: | 3<br>74% | <授業公開><br><br><授業改善セミナー><br>適宜、指導の助言・支援をいただくことがある。<br><研究・研修><br>二年次研修や特別支援教育関係の研修に参加し、そこでの成果を、日頃の自分の指導に生かすように努めている。<br><特別支援教育><br><br><運動会・合唱コンクール><br>運動会や合唱コンクールにおける経験は、生徒に良い刺激を与えており、教育活動の良い発表の場になっていると思う。また、そのような場になるよう、事前事後指導を行った。 | 学校ではなく、大森学園での合唱コンクールはとても良かった。来年度のアプリコ開催にも期待する。<br>保護者の方々の評価、かなり厳しくてびっくりしました。この古さでこんなにきれいな学校、見事だと思います。<br>今年度の合唱コンクールを見に行った親御さんから「先生が練習の動画を送ってくれてうれしかった。本番は、練習と比べてとても上手になっていて、とても感動した」と話していました。是非来年度も続けてほしいです。<br>成果指標の選び方があまり良くないのでは、ハード面よりソフト面の魅力が重要です。<br>保護者・生徒にも学校の取組が評価されています。<br>運動会の群応援や合唱コンクールは生徒たちが協力することの意味を理解させるのに役立っていると思う。これからも発展させてほしい。 |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。<br>3:学期に1回（年間3回）以上行った。<br>2:年度間に1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。 | 3: | | | |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。 | 2: | | | |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4:月1回以上行った。<br>3:学期に2～3回行った。<br>2:学期1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | | | | | |
| | | 運動会・合唱コンクールは教育活動のよい発表の場となっている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。<br>3:80%以上の教員が回答した。<br>2:60%以上の教員が回答した。<br>1:60%未満であった。 | 「輝く校舎を目指して、校内美化に努め、清掃活動に取り組んでいる」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。 | 1: | | | |
| プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育 | 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4:月1回以上更新した。<br>3:学期に2～3回更新した。<br>2:学期1回以上更新した。<br>1:更新しなかった。 | 「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が80%以上。 | 4: | 3<br>72% | <情報発信><br><br><地域教育連絡協議会><br><br><学校地域支援本部><br>各種検定の実施はありがたいです。<br><キャリア教育><br><br><ボランティア><br>挨拶運動など、とてもよかったです。 | 学校はいろいろな機会を与えて、地域との関わり方を今後も行っていく必要性があると思う。<br>学校になかなか行けなかった分、情報発信はもっと出してほしかったと思います。<br>検定など手伝いできることがありよかったです。ただ、まだ保護者の方々には学校地域支援本部がどのような物か伝わっていないように感じます。<br>よく努力されていると思います。<br>皆が同じ方向性を持っていれば実現可能です。アンケートの2番と10番に生徒と保護者の見解に乖離があった。生徒の将来像について理解し合える時間があった方が良い。 |
| | | 地域教育連絡協議会において、生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4:毎回情報を提供した。<br>3:おおむね情報を提供した。<br>2:あまり情報を提供しなかった。<br>1:情報を提供しなかった。 | 「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が70%以上。 | 3: | | | |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4:学期に2～3回行った。<br>3:学期1回以上行った<br>2:年1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%以上。 | 2: | | | |
| | | 地域と連携して職場体験などのキャリア教育や道徳地区公開講座などの教育を実践している。 | 4:全教員で行った。<br>3:80%以上の教員で行った。<br>2:60%以上の教員で行った。<br>1:60%未満であった。 | | | | | |
| | | 学校・地域ボランティア活動の推進を通して地域・保護者との連携を図る。 | 4:学期に2～3回行った。<br>3:学期1回以上行った<br>2:年1回以上行った。<br>1:実施しなかった。 | 「学校が出す文書、学校だより、ホームページ等は分かりやすく、学校の活動についてよく伝えている」とアンケートで回答した保護者の割合が60%未満。 | 1: | | | |
| | | | | | | | | |